



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月28日

上場取引所 東

上場会社名 持田製薬株式会社
コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 坂田 中

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	20,427	△8.6	2,460	△40.1	2,565	△38.7	1,920	△1.0
26年3月期第1四半期	22,359	4.7	4,107	4.8	4,185	2.9	1,940	△27.5

(注)包括利益 27年3月期第1四半期 2,266百万円 (10.1%) 26年3月期第1四半期 2,057百万円 (△10.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	95.65	—
26年3月期第1四半期	94.39	—

※平成25年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	126,552	95,072	75.1
26年3月期	130,669	93,688	71.7

(参考)自己資本 27年3月期第1四半期 95,072百万円 26年3月期 93,688百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	13.50	—	92.50	—
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	75.00	—	75.00	150.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※平成25年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。平成26年3月期第2四半期末の1株当たり配当金につきましては当該株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

なお、当該株式併合を考慮した場合の平成26年3月期第2四半期末の1株当たり配当金は67円50銭となり、平成26年3月期の1株当たり年間配当金は160円(記念配当15円を含む)となります。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	45,500	0.4	6,200	△21.9	6,300	△21.6	4,200	△4.6	209.14
通期	95,000	1.1	14,800	△10.8	15,000	△10.7	10,000	1.1	497.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	21,900,000 株	26年3月期	21,900,000 株
27年3月期1Q	1,817,964 株	26年3月期	1,817,465 株
27年3月期1Q	20,082,163 株	26年3月期1Q	20,553,429 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※平成25年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。26年3月期1Qの期中平均株式数(四半期累計)につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
4. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、景気が緩やかな回復基調となりましたが、消費税率引き上げの影響や海外景気の下振れリスクが懸念される等、依然として先行きが不透明な状況で推移しました。医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする継続的な薬剤費抑制政策の一つとして後発品の使用が促進されており、また、平成26年4月には長期収載品の薬価引き下げの新ルールが適用された薬価改定が行われました。加えて企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点領域の循環器、産婦人科、皮膚科、救急、及び精神科にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、204億2千7百万円、前年同期比8.6%の減収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は、薬価改定及び後発品の影響により主力品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エバデール」等が前年同期売上高を下回り、売上高は194億9千2百万円、前年同期比9.0%の減収となりました。なお、高血圧症治療用の配合剤「アテディオ配合錠」を平成26年5月から販売しております。

ヘルスケア事業は、市場の低迷と消費税率引き上げの影響のなか、抗真菌剤配合シャンプー・リンス等の抗菌ケア製品「コラージュフルフルシリーズ」が堅調に推移したものの、売上高は9億3千5百万円で、微増収となりました。

次に当第1四半期連結累計期間の利益面につきましては、販売費及び一般管理費はほぼ前年同期並みに推移しましたが、医薬品関連事業の売上高減に伴う売上総利益の減少により、営業利益は24億6千万円で前年同期比40.1%の減益、経常利益は25億6千5百万円で前年同期比38.7%の減益、四半期純利益は19億2千万円で前年同期比1.0%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、疼痛治療薬（TRPV1拮抗薬）の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、「レキサプロ」の社交不安障害の臨床第Ⅲ相試験、潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」の臨床第Ⅲ相試験をそれぞれ実施中です。「ディナゲスト」の子宮腺筋症は臨床後期第Ⅱ相試験が終了し、臨床第Ⅲ相試験の準備中です。また、「ベセルナ」の尋常性疣贅は臨床前期第Ⅱ相試験を実施中です。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は26億2千5百万円です。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は、1,265億5千2百万円となり、前連結会計年度末比で41億1千7百万円減少いたしました。

資産の減少は、主に棚卸資産が増加しましたが、現金及び預金や受取手形及び売掛金の売上債権が減少したためです。負債・純資産の減少は、主に四半期純利益がありました。また、配当金、法人税等の支払いにより減少したためです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成26年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の繰延税金資産が534百万円、退職給付に係る負債が1,514百万円それぞれ減少し、利益剰余金が979百万円増加しております。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,135	29,657
受取手形及び売掛金	27,982	26,389
有価証券	11,337	11,337
商品及び製品	11,521	11,874
仕掛品	1,392	1,883
原材料及び貯蔵品	3,645	4,161
繰延税金資産	3,407	3,487
その他	1,420	1,370
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	93,842	90,161
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,006	6,907
機械装置及び運搬具(純額)	2,051	2,335
土地	6,093	6,093
その他(純額)	2,332	1,819
有形固定資産合計	17,484	17,155
無形固定資産	392	533
投資その他の資産		
投資有価証券	11,218	11,312
繰延税金資産	1,708	1,582
その他	6,023	5,807
投資その他の資産合計	18,950	18,702
固定資産合計	36,827	36,391
資産合計	130,669	126,552

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,575	12,020
短期借入金	875	875
未払法人税等	4,293	776
賞与引当金	2,671	1,212
その他の引当金	1,139	793
その他	8,487	9,459
流動負債合計	29,041	25,138
固定負債		
退職給付に係る負債	7,062	5,572
その他	876	768
固定負債合計	7,939	6,341
負債合計	36,981	31,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	90,762	91,805
自己株式	△8,806	△8,810
株主資本合計	91,057	92,096
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,337	3,659
退職給付に係る調整累計額	△705	△682
その他の包括利益累計額合計	2,631	2,976
純資産合計	93,688	95,072
負債純資産合計	130,669	126,552

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	22,359	20,427
売上原価	8,152	7,760
売上総利益	14,206	12,667
返品調整引当金戻入額	6	12
差引売上総利益	14,212	12,679
販売費及び一般管理費	10,105	10,218
営業利益	4,107	2,460
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	63	70
その他	38	45
営業外収益合計	106	119
営業外費用		
支払利息	7	5
支払手数料	5	5
為替差損	14	-
その他	1	4
営業外費用合計	28	14
経常利益	4,185	2,565
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
投資有価証券評価損	1,012	-
特別損失合計	1,013	1
税金等調整前四半期純利益	3,172	2,564
法人税等	1,232	643
少数株主損益調整前四半期純利益	1,940	1,920
四半期純利益	1,940	1,920

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,940	1,920
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	117	322
退職給付に係る調整額	-	23
その他の包括利益合計	117	345
四半期包括利益	2,057	2,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,057	2,266

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(平成27年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成26年3月期		当 期 平成27年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第1四半期 実績	年間 実績	第1四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	96	377	74	341	△ 23
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	30	117	28	114	△ 8
抗うつ剤 レクサプロ	13	76	14	104	+ 8
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	19	90	18	92	△ 5
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 ترامセツト	-	12	6	31	-
抗ウイルス剤 アラセナーA	5	22	4	19	△ 14
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	4	19	4	18	△ 6
肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド	4	17	3	14	△ 14
真菌症治療剤 フロリード	3	12	3	11	△ 6
自律神経調整剤 グランダキシシ	3	12	2	10	△ 19
尖圭コンジローマ・日光角化症治療薬 ベセルナ	2	9	2	10	△ 9
速効型食後血糖降下剤 ファスティック	4	14	2	9	△ 29
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	2	9	1	8	△ 30
後発品	12	57	17	68	+ 40
スキンケア製品	9	43	9	46	+ 0

※アテレックは、アテディオを含む

※レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算

(2) 医薬品開発状況

医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
MLD-55(レキサプロ、エシタロプラム) : デンマーク ルントベック社から導入			
臨床第Ⅲ相	社交不安障害	経口剤	<効能追加>
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎	経口剤	
MJR-35(ティナゲスト、ジエノゲスト) : 独国イェナファーム(ハイエル・ファーマAG)社から導入			
* 臨床第Ⅲ相準備中	子宮腺筋症	経口剤	<効能追加>
MND-21(エパテール、イコサペント酸エチル)			
臨床第Ⅱ相終了	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	<効能追加>
MTD-39(ベセルナ、イキモト) : 豪国アイノバ・ファーマシューティカルズ社から導入			
臨床前期第Ⅱ相	尋常性疣贅	外用剤	<効能追加>

*平成26年3月期 決算短信(平成26年5月12日公表)からの変更点